



福島町福祉センター図書室

「福島町」という地名は福島県とは関係していません。由来は何でしょう？町内には福島川が流れています。「角川日本地名大辞典『北海道』」によると、「同川はもとホロカナイといい、アイヌ語のホロカナイ(却流川)に由来すると、同じくホリカナイ(逆さ川の意)によるともいわれる。また一説にはホロカナイ、あるいはホリカナイの転訛したヲリカナイによるとされるが、いずれも却逆川の意で不吉とされ、寛永元年に原名とは正反対の福島に改称された」と書かれています。

ちょっと待った！「寛永」って一体いつ？と北海道の歴史ではクエスチョンマークです。実は福島町の歴史は、とてつもなく古いというのが町の公式 HP からわかります。

「文治5(1189)年、源頼朝の奥州征伐の際、破れた奥州藤原の残党が津軽から逃げ渡り吉岡村に定住したのが始まりとされている。その、奥州藤原は平泉に拠って陸奥、出羽の両国と蝦夷にまで勢力を伸ばした『北方王国の王者』といわれ、『平泉政権』と呼ばれるほどの地域政治を行っていた実力者だった。つまり、源氏・平家対立の時代は清盛、頼朝にならぶ第3の政権と目されていた。陸奥藤原は四代・一世紀に渡って栄華を誇り、特に三代目秀衡の時代が絶頂期。平家を倒した頼朝にも服従せず、当時国家の反逆人とされた義経を庇護した。この義経問題が引き金となって、頼朝は『奥州征伐』の兵を出し、奥州藤原を滅ぼした。藤原氏残党は四代目・泰衡の遺志を請けて、勢力を整え再び立ち上がるために津軽海峡を渡り、吉岡(現福島町内)にも流人が定着したといわれている。」

ということで、道内初の漁師が定住したのが福島町ということになります。白符(しらふ)地区は「ニシン漁発祥の地」とされています。金山が発見され、ゴールドラッシュに賑わい、金掘りの中には「隠れキリシタン」が紛れ、幕府の命令によりキリシタン106名の処刑という悲劇も起きています。幕末にはこの一帯が、新政府軍と旧幕府との激しい戦いの場となりました。

現在、クマに襲われてお亡くなりになる「熊嵐」が起きている福島町は、このような歴史の町です。面積の93%が山林という地形で住民はほとんど海岸沿いに住んでいます。森林の伐採や整備においては以前から町で議論されていました。人口は3300人ほど。

札幌から鉄道で行くには時間がかかるので、丘珠から函館へ空路を使い、函館空港からバスで函館駅へ。そして「道南いさりび鉄道」に乗って終点木古内で下車します。新函館北斗駅から木古内駅まで1駅新幹線を利用するという必殺技は今回使いませんでした。「道南いさりび鉄道」の進行方向左手に見える津軽海峡の景色は情緒たっぷりなのでお勧め！

木古内駅から福島町へはバスに乗り換え、更に 90 分近くかけてようやく到着します。こちら
も昭和の時代、木古内から松前線という鉄道が走っていました。

現地到着まで全体の接続は悪くないのですが、半日はたっぷりかかる長旅で乗り換えが多く、
途中下車したくなる町もたくさんあります。私が訪れた日は、札幌の我が家を朝 6 時に出発し
て、福島町に到着したのは 16 時半という 10 時間を越える旅でした。ちなみに札幌から福島町
まで 300 キロ以上あります。

北海道新幹線は福島町に青函トンネルの出入り口があることから、町内に蒲鉾型の建物「福
島町青函トンネル記念館」があり、トンネル工事などの工程を知ることができます。

記念館の隣に図書室の入っている福島町福祉センターがあり、ロビーの壁面に高さ 5m 横 7m
ほどのサイズによる書道作品は壮観です。そこには、

幸福を祈って
一歩でも一寸でも 信じる道を
後悔してなんかられない
片っぱしからしろ、忠実に
進め
実篤の詩
福商総合文化部

と書かれた武者小路実篤の詩を書いた大作が、落款印付きで展示されています。

この大きな実篤の作品の隣にこじんまりとした図書室の入口があります。新刊案内や例えば
一般の方へ「夏は読書で熱くなれ！」というブックリストで生涯学習として推進しています。

小さな取り組みを丁寧に運営しているなという印象を持ちました。町内には小学校2校、中学
校1校があり、特に小学生による図書室見学を頻繁に行っています。

今年、図書室入口にチョークアート看板も設置したようです。

福島町は第 41 代横綱・千代の山、第 58 代横綱・千代の富士の生誕の地。記念館も図書室から
徒歩圏内にあります。千代の富士が断髪した際の大銀杏、国民栄誉賞状などが展示されていま
す。九重部屋の稽古場と土俵が再現されていて、同部屋の合宿も開催されます。今年はクマの
問題があり合宿は中止になったようです。

現在クマ対策として電気牧柵の設置、川釣りの規制なども行なっています。ゴミ対策は以前
から町民に周知していたのですが、それでも山林から来てしまいます。

2024 年 5 月訪問
加藤 重男